

「教師教育研究」刊行によせて

岐阜県教育委員会教育長 鬼頭善徳

岐阜大学教育学部研究誌「教師教育研究」第1号が発刊されたことを心よりお喜び申し上げます。とりわけ、記念すべき第1号の副題を「岐阜県教育委員会と岐阜大学教育学部の連携協力にもとづく10年経験者研修（12年目研修）の構想と展開」とされたことは、両者のこれまでの連携協力の関係が大きく実を結んだ証でもあり、岐阜県教育委員会にとっても大きな喜びであります。

岐阜県教育委員会は平成9年度に岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センターと協定を結び、その後、専門委員会を設置して連携に関する協議を続けてまいりました。その結果、平成13年2月には岐阜大学と岐阜県総合教育センターとの連携協力に関する覚書が交わされ、「現職教員の研修に対する協力」、「教育に関する研究活動への支援」、「学校不適應の児童生徒に対する支援」などの分野で本格的な連携が始まりました。連携協力の体制が確立した直後に、期せずして「10年経験者研修」の法制化が行われ、岐阜大学教育学部の専門性を生かす形で「10年経験者研修」が実施されました。

教員の資質向上を図るためには、養成・採用・研修の各段階を通じて、大学と教育委員会とのこれまで以上の連携が不可欠であり、大学と教育委員会等との間で、組織的・継続的・相互的交流を含めた体制づくりを図ることが重要です。また、学校教育における様々な問題を抱える現職教員からの相談に応じることができる相談体制の確立などについても、岐阜大学教育学部の高度な専門性に大いに期待しているところでもあります。「10年経験者研修」では、受講者を内地留学生扱いとし120講座を越える講座を開設していただき、研修期間だけでなくその後も大学の先生から支援を受けたり、大学の施設等を利用したりできるなど、受け入れ態勢にも大きな努力をいただいております。こういった大学側の努力が、今回、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」として評価されたものと考えております。

現在、学校現場には様々な課題があります。そういった課題を解決するために、今後とも岐阜大学教育学部と岐阜県教育委員会との連携協力を推進するとともに、両者が協力して児童生徒にとって素晴らしい教員を育成していくことを期待しております。